

データ抽出の操作手順

抽出プログラムの機能：

指標値型データの抜き出し PGM は、Excel シート上にある項目一覧表の各項目の抜き出し指示にしたがってデータを抜き出す。抜き出しは RID 項目の指定、データセルの指定、レコード数の指定が可能である。

Excel-VBA で作成してある（Microsoft 社の Excel が必要）。

手順概要：

Excel を起動したのちに抽出用プログラムを開いてください。抽出プログラムは指標値型データと同じところに記録されている。プログラム名は町丁字等別従業地・通学地集計の場合は「SELH12KIS.xls」です。

プログラム起動後の処理は、次の 2 つのステップに分かれる。

1. Excel シートの項目一覧表上に抜き出しの指示をする。
抜き出したい項目に * を入れる。
2. 抜き出し元となるファイル、抽出済み結果の保存先、最大レコード数を指示し、抜き出しを実行する。

補足：

小地域集計（基本単位区別、町丁字等別）は集計値のほかに次の情報が不可されている。この情報は RID 項目に記録されている。

(1) 秘匿情報

小地域集計（基本単位区別、町丁字等別）は秘匿措置がされている。

秘匿情報は秘匿地域の町丁字コードであり、秘匿先、秘匿元の 2 種類の意味合いがある。秘匿についてはこの説明書の最後の項を参照のこと。

(2) 町丁字名称

漢字の町丁字名称を記録している。

(3) 中心点座標

基本単位区別集計の場合にのみ、緯度と経度の情報を記録している。

3. 指標値型 CSV ファイルの必要事項を指定する。

The image shows two screenshots from a software application. The top screenshot is a dialog box titled '指標値型データのデータ抽出' (Indicator Value Data Data Extraction). It contains the following fields and controls:

- 元ファイル (Source File): C:\H12KIS01.J.dat
- 元ファイルの名前 (Original File Name): (kkは県番号) 人口秘匿: H12KISkk.J.dat
- 抜き出し先ファイル (Destination File): [Empty]
- 抜き出し先ファイルの種類 (Destination File Type): Radio buttons for CSV, Excel (selected), and DBF.
- 抜き出し最大レコード数 (抽出最大数) (Number of Records to Extract): 100
- Buttons: もどる (Back), 実行 (Execute)

Callout boxes provide instructions:

- 抽出最大数を指定する。全ての場合は「全て」と指定する。 (Specify the maximum number of records to extract. In all cases, specify 'all').
- 抽出元データと抽出先データ名を指定すると表示される。 (When you specify the source and destination data names, they will be displayed).
- 参照をクリックすると「ファイルを開く」のウィザードが表示される。 (Clicking '参照' (Reference) will display the 'Open File' wizard).

The bottom screenshot is a Windows Explorer window showing a directory of files. The files are named H12KISnn.J.dat, where nn is a two-digit county number. The file H12KIS01.J.dat is selected. Callout boxes provide instructions:

- 抽出元のデータを選ぶ。
名前は町丁字等別人口移動集計の場合は [H12KISnn.J.dat](#) である。nnは県番号。ダブルクリックで選ぶ。
- 抜き出し先のデータを選ぶ。
新規の場合はファイル名をキーインして開くをクリックする。

「実行」ボタンをクリックして抽出を開始させる。

抽出が終了したら「もどる」ボタンをクリックする。

利用上の留意点

(1) 秘匿について：

平成 12 年集計での秘匿は一定規模以下の地域の集計結果を秘匿する。すなわち、秘匿対象となる地域は全ての集計表において秘匿される。秘匿は次の三タイプとなっており、指標値型 CSV データは集計表をこの 3 タイプに分類し、タイプごとに地域で 1 データとしてとりまとめたものである。秘匿されたデータは一定の手順に基づいて他の地域（町丁字等別の場合、原則は直前の地域）に足し上げられ、どこからどこへ足し上げられたのかの情報は CSV データの最後に記録している。

ただし、人口移動集計の場合は人口に関する秘匿のみである。

1．世帯に関する秘匿

各地域において一般世帯数が 1~3 の地域が秘匿される。

2．人口に関する秘匿

各地域において一般世帯数と施設等の世帯人員の合計が 1~3 の場合に秘匿する。

3．秘匿なし

秘匿措置なし

統計局で集計した集計表（TEXT 形式としてシンフォニカから提供中）と秘匿の関係は次のとおりであり、指標値型 CSV データは秘匿が同じものを集計区分ごとに一つのデータにまとめている。

基本単位区別集計

第 1 表（秘匿なし）、第 2 表（人口秘匿）、第 3 表（秘匿なし）

町丁字等別集計その 1

第 4 表（秘匿なし）、第 5 表、第 6 表（人口秘匿）

第 7 表（秘匿なし）、第 8 表～第 14 表（世帯秘匿）

町丁字等別集計その 2

第 15 表～第 21 表（人口秘匿）、第 22 表、第 23 表（世帯秘匿）

町丁字等別集計その 3

第 24 表、第 25 表（人口秘匿）、第 26 表（世帯秘匿）

従業地・通学地

第 27 表、第 28 表（人口秘匿）

人口移動

第 29 表（人口秘匿）

(2) 集計データについて

集計値なしは数字の「0」、秘匿され隠されたデータはブランク（桁の「 」）としている。（すなわち、統計局での集計は「-」を「0」、「ブランク」を「ブランク」としている。）